

審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和4年度 第6回甲州市戦略会議
開催日時	令和5年3月13日(月) 午後1時00分から午後2時00分
開催場所	甲州市勝沼ぶどうの丘 会議室
議 題	1 甲州市戦略会議提言書(概要版・詳細版)について
出席委員	岡村美好委員、小林和人委員、土屋隆男委員、寺田秀昭委員、 中村一政委員、中村猛志委員、古屋亮委員、山下善雄委員、 横内正史委員 (五十音順)
会議の公開又は 非公開の区分	非公開
会議を一部公開 又は非公開とし た場合の理由	委員がより自由な発言をできるようにするため
傍聴人の数	—
審 議 概 要	別紙のとおり
事務局に係る事 項	出席者 政策秘書課3名(林リーダー、三森、宮川)
そ の 他	

<p>内容</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議題</p> <p>(1) 甲州市戦略会議提言書(概要版・詳細版)について</p>	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>○事務局(林) 開会</p> <p>○中村会長あいさつ</p> <p>○中村会長 提言書の内容に入る前に、事務局で何か事前説明があればお願いします。</p> <p>○事務局(林) それでは、最初に事務局から説明をさせていただく。今回の提言書をまとめるにあたり、概要版の11ページにあります開催経過のとおり、市からお示しした4つのテーマである農業、ワイン、人材育成、DXの推進に加え、防災関係の災害時の首都機能サポートをプラスワンとして、5回の会議を開催した。一般的に、行政で行われる会議は、事務局がまとめたものを皆さんにお示しし、議論を進めるパターンが多いが、戦略会議においては、5回の会議で得られた結論を会長、副会長が中心となりまとめていただいた。その際に、詳細版という形で詳細意見も集約し、委員の皆様には事前配布により目を通していただいたと思うが、最終的に確認していただけるようお願いしたい。提言書は3月30日に正副会長から市長に提出する予定で現在準備を進めているので、ご理解をいただきたい。</p> <p>○中村会長 それでは、本日のメインである最後の議題の戦略会議提言書概要版・詳細版について、古屋委員と寺田委員より内容の補足説明をお願いします。</p> <p>○古屋委員 先ほど会長と事務局からも説明があったとおり、本来、このような提言については、「甲州市の課題としてこういう課題がありますね」というような話の中で、私たち専門家が甲州市に必要な提言をするのが一般的である。しかし、今回は少し異なり、2040年の世界を想像しながら、甲州市に必要なものは何かという視点から話をする事となった。非常に議論しにくい中、皆さんと共に全5回の議論を行い、最終的にまとめ上げたものは、会長と副会長から「こういうものを載せよう」と指示があり、私がまとめた次第で</p>
---	--

ある。最終的な提言の内容について、まとめた私が簡単に説明をさせていただきます。

今回の提言書のタイトルにある「創造の一滴」という言葉は、甲州市が基本的に川の流れが集まって最終的に甲州市に流れてくる場所であることから、全てのものが1滴1滴の思いから生まれてきていることを表現したものである。このため、「1滴」という言葉を使用している。先ほど、昼食を食べていた際に甲州市の景色を眺めたが、とても素晴らしい景色であった。この景色を2040年、2050年、2060年、2100年に向かって維持していくことが大切であり、私たちは引き継いできたこの風景をしっかり残す必要がある。そのためにはどのようにすればよいかという議論が進んできた。概要版をご覧くださいと、話がわかりやすいため、概要版の4ページをご覧ください。私たちが議論の中で特に重視してきた「景観」について、この景観を維持するために、ここで生活する、そして食べていくためにどうしたらよいかを深く議論をしてきた。「景観を後世に残す」という目標は、項目の中でも最も厚く議論し重要であるため、デザインの中でも上位に置かせていただいた。ただ、この目標は「1滴」のひとつであるため、他の項目と並列して記載をしている。概要版については、提言書の概要をまとめており、詳細版については、各委員の皆さんから頂戴したご意見をそれぞれ載せたものになる。私が発言した内容が載っていないところがあるかもしれないが、基本的には同じようなご意見については会長、副会長と共に集約している。各項目について、再度簡単に説明させていただきます。

「1 景観を後世に」という項目では、農業と景観の維持について、ぶどう棚や果樹栽培の維持には、農業をしっかりと行い、農地の流動化を考える必要がある。これに加えて、農地の流動化を行うセンターや、核となる株式会社を作ることが重要になり、これに加えて、勝沼ぶどうの丘のような中心的な施設で、相談窓口や加工工場等農地の流動化や農業振興を図りましょうということを書かせていただいている。

次に、「2 甲州市ブランドの価値向上に向けて」の項目では、農業で食べていくためにという話の中で、やはりワインが大事になってくる。果樹栽培も重要だが、付加価値向上には農地流動化や加工なども当然必要で、ワインを含めた甲州市のブランド向上のためにどうしたらいいかということ議論してきた。付加価値向上のため

には認証も重要であり、品質向上だけでなく、文化や物語の構築も非常に大事であり、何ができるかを話し合ってきたところである。それぞれのワイナリーが自分たちの思いを込めてワインを作っているため、認証制度に合った方法でワインを作ることが困難であるという意見もある。しかし、一方で認証制度はブランド価値を高めるためのものであるため、これを目指しながら少しずつ進んでいくことが重要であるという議論がされていた。

続いて、「3 人の流れを通じた活性化」について、農業をしっかり考えた上で、ブランド価値を如何に上げていくか、儲かる農業というのを思考しているが、それだけでは足りないという話である。交流人口としての人の流れを通じて観光を含めて活性化していく必要があるのではないかと。横内委員からフィールドミュージアム構想のお話を頂戴したが、甲州市全体を一つの美術館、アトラクションのように見立てて、人を呼び込むきっかけというのを少し考えていきたいと思いますということが、個々の人の流れを通じた活性化になる。これは「体験」ということを特に重視する必要があるが、甲州市には非常に多くのコンテンツがある。世界農業遺産や日本遺産、ユネスコエコパーク、国宝など、ありとあらゆるものがあり、それに観光のニーズとしての体験を組み合わせながら、都市部の交流人口を呼び込んでいき、いずれ多くの人たちに来てもらうことによって経済振興の充実を図っていきましょうということが、この3番に書かれている。

この先の4番5番については、寺田副会長からご説明いただきたい部分であるので、先に最終項目の「6 都市のバックアップ機能」について説明させていただく。山梨県は災害の発生が非常に少ないという利点を生かしていく。都市の行政基盤をバックアップすることは非常に難しいが、民間企業のバッファーとして常に役割を果たすことは甲州市でも十分可能だと感じる。そこはしっかり目指していく必要がある。それを整備することによって将来的には、行政ともバックアップして引き込めるような都市を目指せるのではないかと。このような話の中で、都市のバックアップ機能についても言及し、まとめさせていただいた。

私からは、景観を守りつつ、農業を儲かる・生活ができるものとして発展させていく、また、ワインの文化価値向上や甲州市の文化価値向上を図りつつ、交流人口を呼び込むことについて皆様からのご意見を頂戴したことをまとめさせていただいた。非常に雑駁な内

容だが、私からの説明は以上である。あとは寺田副会長からご説明をいただきたい。

○中村会長 ありがとうございます。続いて寺田副会長からご説明をお願いします。

○寺田委員 私からは、4番と5番について説明をさせていただく。

「4 次代の甲州市を担う人材育成に向けて」については、一言でいうと教育である。これについては、いろんな考え方や意見があるが、当初は非常に簡単に何かを表そうという考え方だった。そこに出てきたのが甲州市の中のいろいろなところに存在する「一滴」という言葉で、今回の表紙にも入れていただいた「創造の一滴」は、これも間違いなく大きな言葉になる。「一滴」という共通の用語を使いながら、ありとあらゆるところにこの一滴が存在するということがこの内容である。概要版に1から10の条項があるが、やはりこの甲州の清流の一滴、大菩薩から流れる一滴の水がこの甲州市の皆さんのすべてを捉えているということで、これを一番先に入れさせていただいた。前にも申し上げたとおり、私はあの大菩薩から流れる水を3回ほどいただいたことがある。そこから出てくる清流は、あの大菩薩を通して下まで流れるのに100年かかるのか1,000年かかるのか私も専門家でないのでわからないが、あの一滴にはとてつもないその美味しさもあり、清々しさがあるということで、この最初に「1条 甲州清流の一滴」というものを入れさせていただいた。そして、その一滴がこの甲州の川を流れて、ぶどうをはじめとするいろいろな作物を生育しているということで、「2条 甲州生育の一滴」としている。そして、甲州ワインについてもいろいろなところを見させていただいた。この芳醇の一滴から世界をどのように制覇していくのかという考え方から3つ目に「3条 甲州芳醇の一滴」としている。そして、その周りにはぶどう畑の景観がある。4つ目の「4条 甲州景観の一滴」は、世界農業遺産になった時の大きなキーワードであるぶどう棚であり、ヨーロッパやアメリカには存在しない山梨特有のぶどう棚がある。それらを含めて「5条 甲州自然の一滴」。そして、文化歴史について、甲州市には3つの国宝があり、県内の国宝のほとんどが甲州市に存在していることから、「6条 甲州文化の一滴」、「7条 甲州歴史の一滴」としている。それらを活用しながら、勝沼ぶどうの丘をはじめとする「8条 甲州観光の

一滴」。そして、「9 条 甲州育児の一滴」は子どもを育てようと思う多くの方の一滴。最後には、私たちが長年議論してきた甲州市の2040年の未来に向けて、いろいろな意見をまとめた「10 条 甲州未来の一滴」がある。教育については、「一滴」という言葉が一つのキーワードになる。以上のように、「一滴」という言葉はありとあらゆる分野やその場において、郷土愛を自然に作り上げるためのキーワードとなるかもしれない。今回は、「一滴」という概念を細かく分類したが、このような「一滴」が子どもたちの心の中で育っていくような、そんな「一滴」になったらいいなという内容である。

続いて、「5 甲州市を磨く情報の共有・共通に向けて」について、このDXは、これから2040年に向かっていく中で、非常に中心的な言葉になっている。今、私も週1回企業に通っているが、DXは必要不可欠なものになっており、何をすることも、DXがなければ進まない時代になっている。そして、各企業は今、量子コンピュータをどんどん試作しており、一部の試作機が市販されている。この1台があれば、1億人が持っているコンピュータが賄えてしまうという時代になっている。そうなった時にこのデジタルをどう使うのかというのは、今までは科学技術やロケットなどに注力されてきたが、最近では、いろいろな話を総合して聞くと、農業こそがDXを使うことによって非常に効率的になり、さらにはAIが活用され、AIが答えを出してくれる時代になっている。また、以前に山下委員からお話いただいた、ゴーグルを使ってのぶどうの剪定も同様で、これからはすべての農作物がゴーグルを着用した上で栽培されることが予想されている。本当にこのような時代がくるのかと思われるかもしれないが、試作機はどんどん出来ている。さらに、北杜市ではビルの中で農作物を作る施設が新たにでき、工場の中にはロータリーの直径3m、高さ8mほどの円形のもので60個ほど並び、自然光ではなくLEDを使用して栄養素を送る水で農作物が作られている。こうした時代の変化の中で、基盤となるDXが非常に重要となっている。したがって、甲州市も他を待っているわけにはいかず、中心的役割を果たして、DXをどう活用するかについて研究していく必要がある。

アメリカの場合、現在各地には、例えば月や火星に行くためのドーム等、様々な種類のドームが存在している。これらはすべて30年前から開発が進められ、現在では月や火星に到達するための技術や、その際に必要となる食料を生産するためのDXの研究が行われている。このような技術はますます進歩しており、日本の大手企業

等も食料の DX に向けた開発を進めていて、これらの取り組みは重要である。私たちはこれらの技術をどのように取り入れるかを考える必要がある。農業イコール DX である。ウクライナでは現在、多くの問題が起きており、最も深刻な問題の一つは、世界の高地に劇薬がばらまかれたことである。以前は鉛弾が使用されていたが、今では1つでも人が接触すれば死に至る化学物質が使用されている。このような時代において、日本はどのように対処すべきか、甲州市でも議論しなければならない。食糧難に悩まされ、世界の穀物がこのような化学物質で汚染されていくという懸念もある。悪質な物質ほど簡単に作られ、良質な物質はなかなか作れない。敵を殺すための悪質な毒物がどんどん作られ、ばらまかれている状況の中で、私たちは遠い世界で起きていることと思っているかもしれないが、実際にはもう私たちの身近に及んでいる。このような時、日本はどう対処するのか、また、甲州市はどのように考えているのか。現在、DXがあれば、あらゆる問題に対処することができる。今後の農業においては、DX が不可欠であり、そのためには研究開発が必要である。これまでのように他の誰かが行い、他の誰かが新しい作物を作り、それを購入するのではなく、自分たちで作る、考え、改良していく必要がある。このキーワードは、間違いなく DX の中にある。また、「一滴」という教育や心のあり方、量子コンピュータを活用した DX は、異なるように見えるが、実は同じ考え方なのである。私からの説明は以上である。

○中村会長 ポイントだけ絞って、皆さんとの議論の内容をまとめさせていただいたが、ご質問等があればお願いします。横内委員何かあるか。

○横内委員 2年間で本当にご苦労様でした。3月8日の山日新聞に山梨市の博物館整備の公約が出ていた。見た方もいらっしゃると思うが、元々山梨市はフィールドミュージアム構想というものを作った。これを世界農業遺産に掛けて学習拠点を作った。これが一つの向かう方向なのかなと思う。世界農業遺産は三つの市が共有していますが、やはり甲州市についてもやはり到達点は世界農業遺産というか、そういうキーワードを持って何をしていくかというような位置づけがあればより具体的な今後の対策ができるのではないかと思います。

○中村会長 まさにそのとおりであると思う。研究開発プラス甲州市として何か取り組んでやってもらいたいと思う。岡村委員はどうか。

○岡村委員 これだけのものをまとめるのは大変だったと思う。中身については、これと言ってありません。

○中村会長 他にご意見はいかがか。

○土屋委員 提言書の中身については、しっかりとまとめていただきありがたく感じている。ただ、形式的な部分で何点か確認させていただきたい。まず、この提言書について、市長へ提出後は、市長はどのように提言書を活用されるのか伺いたい。市長がご自身だけで活用されるのか、それとも市民にも広く公表されるのか。市民も目にするのであれば、もう少し易しい表現で分かりやすいものにした方がいいのではないか。

○中村会長 そういったことについては、我々は具体的には聞いてはいないが、基本的には、戦略会議として各提言に対する検討結果や取り組み状況について、都度市の担当者から戦略会議内に報告をいただけるよう、前回の提言書にも文言として入れている。我々が提出するものは提案書ではなく、提言書であるので、そのところは条件を付けて市長をお願いをしている。先ほどもマリOTTホテルがほぼ内定したとの話を聞いたが、前回出した提言書についても徐々に動き出している部分があるのかなと感じている。市長が提言書をどのように使うかは分からないが、必ず議会に諮ってやっていくのかなと思う。その辺り事務局はいかがか。

○事務局（林） 皆様には大変ご苦勞いただきまとめていただいたので、提出後どうなるのかが気になるのは当然のことである。まず、いただいた提言書については、議会の議員全員協議会において報告する予定である。議会議決案件ではないので、中身について良い悪いということはないが、やはり議会からも情報提供を求められているため、報告をさせていただく。皆様には市長からお願いをして20年後の未来について提言をいただいたわけであるので、市長及び市

としてこの提言書を読み砕いて政策に落とし込んでいく次第である。これは将来に渡ってのことになるので、すぐに形になるもの、数年かかるもの等あるが、その都度ホームページや広報等でお知らせをさせていただきたいと考えている。皆様にはその辺りを注目、注視していただけたらと思うのでよろしくお願ひしたい。

○中村会長 ありがとうございます。土屋委員、続きがあればお願ひする。

○土屋委員 提言書に「概要版」とあるが、これとは別に「提言書」というものは存在するのか。もしないのであるならば、「概要版」という文言は消した方がよいと思う。

○中村会長 前回の提言書もこのように2冊作り、詳細版に皆さんの意見を載せた。このような形が議員さんの方から分かりやすいとの意見があったと報告を受けたためこのような形式とした次第である。

○土屋委員 もう一点気になるのは、文中に英字を省略した単語が非常に多いことである。例えば、「DX」もデジタルトランスフォーメーションと表記した上で、「以下DXとする」と言うように表現した方が分かりやすいのではないか。また、「GI」についても我々は説明を受けているからいいが、一般の市民は理解が難しいと思うので、「地理的表示制度」と説明をした上で、「GI」とした方がよいと感じる。他にも「IOT」等も同様である。もう一点は、8ページの下から4行目の「ただしこの「場」については、・・・」の部分について、「ただし」というものがここだけ出てきている。ここは、この「場」というところを強調しているのだと思うが、ただし書きをしてまで強調しなくてもいいと感じるので、だだし書きを消し、本文に落とし込んだらどうかと提案する。

○中村会長 あとはどなたか意見があるか。

○岡村委員 今の「ただし・・・」のところの話を聞いて、私もそうだなと思った。「ただし、この「場」については、施設に集い・話し合うというものだけとは限らない」と言われると、では何なのかな

<p>4. その他</p>	<p>と返って分からなくなる気がする。</p> <p>○中村会長 それでは「ただし、・・・」の部分は削除するという ことよろしいか。</p> <p>○土屋委員 書かれた当初に思いがあり書かれたものである ので、消すのではなく、文中に含めて平たく表現した方が いいという話である。</p> <p>○中村会長 それでは、土屋委員のご意見を尊重し、ご指摘の 部分を見直した上で、3月30日に市長に提出させていただく。 そのような流れでよろしいか。</p> <p>(一同賛成)</p> <p>事務局の方から何かあればお願いします。</p> <p>○事務局(林) 本日皆様から頂いたご意見を加味して、体裁を 整え、3月30日に市長へ正副会長から戦略会議を代表して提言書 の提出をお願いしたい。委員の皆様には、製本したものを郵送 させていただくので、ご確認をお願いしたいと思う。よろしく お願いします。事務局からは以上である。</p> <p>○中村会長 これで議事を終わらせていただく。次に、その他 として事務局から何かあればお願いします。</p> <p>○事務局(林) 最終的には、30日に市長へ提言書を提出して 最後ということになるが、それをもってこの戦略会議も2年の 任期が終了ということになる。この甲州市戦略会議は市長の公約 をもとに、市長の推薦によって皆様に、委員をお願いさ せていただいたのが2年前の春になる。そして、2年間何とか ここまでやってこられたのも、中村会長はじめ委員の皆様 のご理解とご協力があったからだ大変感謝をしている。本 当に2年間に渡り、皆様には大変お世話になり、改めて感謝 を申し上げる。本当にありがとうございました。</p> <p>我々も審議会や策定委員会等ある程度形の決まった会議 を持つことは多いが、なかなかこういった県内からいろい ろな方にお集ま</p>
---------------	--

5. 閉会	<p>りいただき、自由にご意見を頂戴し、提言書を一から作り上げていただくといった会議に関わることはなかなかできない。私も、市役所に 30 年近く勤めているが初めての経験であり、事務局としても大変勉強をさせていただき、この経験を今後の甲州市に活かしていかなければならないと強く感じている。少し名残惜しい気持ちもあるが、皆様に本当に感謝の意を表して、これをもって戦略会議を任期満了で終了とさせていただきたいと思う。つきましては、最後に会長より全体の締めをお願いしたい。</p> <p>○中村会長 閉会</p>
-------	--